


新型コロナウイルス感染症

訪問看護師が
突然濃厚接触者になったら



連日、新型コロナウイルス感染症拡大の報道に伴い、現場の訪問看護ステーションでは感染対策や物品調達に緊張感のある日々を送っているのではないのでしょうか？

先が見えず、困難な時間が続きますが、利用者や家族、訪問看護師が感染しない事を目指して、お互い頑張りましょう。

今回は、訪問した利用者が新型コロナウイルス感染症と診断され、訪問看護師が濃厚接触者となった、訪問看護ステーションの対応について紹介いたします。

訪問看護師が突然、濃厚接触者となる

利用者：長男と二人暮らしの80代の女性

訪問看護回数：週1回

経過：令和2年夏頃に2週続けて訪問看護のキャンセルの連絡あり。理由は、ご家族から所用のためとの事。

ケアマネジャーから訪問看護師へ、実はご家族が体調を崩し（胃腸炎）仕事を休んでおり、2週目のキャンセルはご本人も同様の症状（胃腸炎）があると連絡を受ける。

ケアマネジャーからの連絡後すぐに担当看護師が状態観察目的で訪問すると、ご家族より、体調が悪化しており、救急受診するか判断に迷っているとの相談される。

意識状態の低下がみられ、主治医へ連絡、救急搬送指示あり即日入院となる。

入院翌日に新型コロナウイルス感染症の診断され、肺炎を引き起こしていた事実が判明する。

濃厚接触者となった看護師の仕事と生活が変わる

(保健所の指示)

- 利用者の陽性が確定した当日に当該地区の保健所より看護師へ直接電話で、その後の対応について指示があった。
- 看護師は濃厚接触者（1メートル以内の距離で15分以上接触）であり、該当した当日より14日間の自宅待機と適切な時期(接触から5日目程度) PCR検査の実施の指示あり。
- 接触から5日目に指定された医療機関に出向き、ドライブスルー形式でPCR検査を実施し、翌日に陰性結果が判明。
- 保健所からは業務への復帰は14日経過後が理想との指導があり、職場の判断に任せるとの内容であった。

(仕事への影響)

- 看護師は保健所から連絡のあった翌日より自宅待機の対応とした。
- 看護師は、自宅待機12日目より在宅ワークとし、自宅のパソコンで訪問看護システム（クラウド利用）にて可能な作業（訪問看護計画の見直し等）を実施し、15日目より職場復帰した。

(生活への影響)

- 看護師の家族は夫・幼児を含む3人の子供との5人家族。
- PCR検査結果が出るまでの期間は、家族との接触を避け、実家の両親に協力してもらいながら自主隔離して過ごした。

その時訪問看護ステーションは？

(あわただしく訪問調整と利用者への説明)

- 連絡が、保健所から担当看護師へあった日以降、担当者の自宅待機体制を整え、訪問の調整を実施。
- 訪問看護ステーションのスタッフ体制が3名のため、残る2名で訪問スケジュール調整と利用者への説明と訪問調整依頼の電話を保健所指示当日より開始。
- 幸い自宅待機が必要となった期間が、事業所の夏季休業期間と重なっており、訪問の休止を依頼する利用者の発生は抑えることができ、残ったスタッフ2名で時間調整をし、利用者に理解いただくことで自宅待機期間を終えることができた。
- 利用者家族の中には感染への不安を訴える方も存在したが、ステーションとして感染防止に留意している事等を丁寧に説明する事で理解をしていただき、訪問の終了となる利用者はでなかった。

(他のスタッフは濃厚接触者にならなかった)

- 以前より在宅ワーク導入、濃厚接触防止のため、訪問看護ステーション内にパーティションの設置や換気を実施しており、訪問に利用する公用車も訪問の都度消毒を実施していたため、職場内には濃厚接触者はいないと判断された。

訪問看護ステーションとしての学び

- 今回利用者が新型コロナウイルス特有の症状を訴えておらず、ガウン等の着用なくマスクの装着のみで訪問看護を実施し、その後、陽性者であったことが判明したケースであった。そのため担当した看護師が濃厚接触者と判断され対応が必要となってしまった。
- コロナ禍といわれる現状において、万が一を考え、体調不良を訴える利用者への訪問の際は、マスク装着・手指消毒はもちろん、ガウンやフェイスシールド、足カバー等の準備・装着も考慮していなければいけないと痛感した事例となった。
- コロナウイルス対策として、ステーション内のパーテーションの設置、可能な限りの在宅ワーク（クラウドを利用した訪問看護システムの活用）、スタッフ間の打ち合わせ時間の削減、時間差での休憩時間の確保など工夫をしており、職場内での濃厚接触の可能性は否定されたため、最低限の影響に抑えることができたと考える。
- 今回の該当ステーションでは、担当看護師の陽性反応が出ず、無事に業務復帰されましたが、日頃からの備えと万が一の体制、地域のステーションとの協力体制など様々考えさせられる機会良いとなりました。
- 今回の対応は夏頃時点でのものであり、その後各行政機関から対応について通知等発信がありますので、最新の情報をご確認ください。

神奈川県新型コロナウイルス感染対策サイト

<https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/1369/>



皆さん、日々の感染対策に頭を悩ませ、ストレスも溜まっていらっしゃると思います

看護の小部屋では今後も皆さんからの「こんな工夫をしているよ」「こんな情報があるよ」など、皆さんの業務に少しでも役立てられるような情報発信ができればと考えております。

ご意見、ご感想含め《ホームページからのお問い合わせ》から情報をぜひお願いいたします。

※お問い合わせ内容には「小部屋」とお書きください。